
遠距離恋愛 ~人生最長の一夜~

ユウジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遠距離恋愛～人生最長の一夜～

【NNコード】

N5853A

【作者名】

コウジ

【あらすじ】

遠距離恋愛をしているカップルの物語。しかし始めて遊んだ夜、男に悲劇が待っていた。

「ガタンゴトン」

仙台に向かう新幹線の中に一人の男（以後、慎吾）がいる。

慎吾は東京に住む18歳の高校生だ。慎吾には仙台に住む彼女（以後、裕子）がいた。出会い系サイトで出会った二人だった。

遠距離ということもあり、一ヵ月にして、始めて顔を合わせる。期待と緊張に胸を膨らませ、慎吾は到着を今か今かと待ちわびている。仙台に着きお互いを見つけると、慎吾は裕子に向かって走って行った。裕子も慎吾の方へ走って行った。始めて二人が顔を合わせる。そして人目を気にすることなく抱き合つた。そしてお互いを確かめあうかのように、キスをした。慎吾にとって、これはファーストキスだつた。裕子はそのことを知っていたので、クスッと笑つて、「初キスもらつちゃつた」と言った。慎吾は恥ずかしさとドキドキで顔が真っ赤になつていた。

そして慎吾は勇気を振り絞り、「手、繋ごつか」と言った。裕子も

「うん、繋ごつか」と言った。

と言つた。駅を出て、二人は計画していた通り展望台のあるビルに行つた。高所恐怖症の慎吾の手を引っ張り、裕子は展望台まで慎吾を連れて行つた。慎吾は始めて見る仙台の街並みに、高所恐怖症のことなど忘れ、眺め続けていた。

二人は展望台を出て、駅前のアーケードを歩き出した。慎吾に初めて始めて牛タン丼を食べ、二人でプリクラをとり、女っ子と二人っきりでカラオケに行き、慎吾にとつて最高の一日になつた。

そして帰る時間になつて慎吾は大変なことに気づかされることになつた。

慎吾は帰りの新幹線代まで使つてしまつていた。見栄つ張りな慎吾

は裕子にお金を借りることもできず、仕方なく新幹線を使わず帰ることにした。

しかし夜も遅く、途中で終電も終わってしまい、慎吾は見知らぬ土地で一夜を過ごすことになってしまった。

慎吾は始発が来るまで知らない土地を泣きながら、時には歌いながら歩いていた。コンビニで時間をつぶしたり、慎吾にとって人生で一番長い夜になってしまった。やがて夜も明けてきて、電車も動き出す時間がきた。寂しさから開放された慎吾は始発に乗り、帰つて行つた。

やがて一人の恋にも終わりがきて、慎吾は進学、裕子は就職。お互いの道に進んで行つた。二人は今でもメールをしたりする仲で、時には相談をしたりしながら友達としての関係で長く続けていった。お互いがお互いを密かに想いながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5853a/>

遠距離恋愛～人生最長の一夜～

2010年10月28日09時28分発行